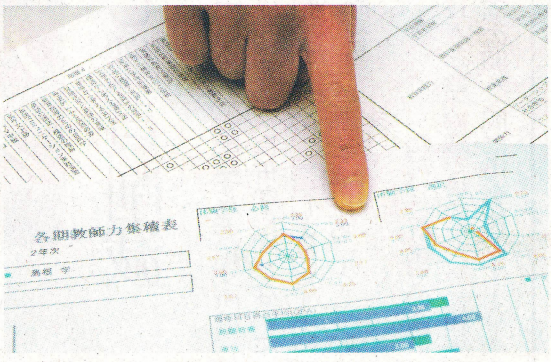
島大教育学部 教員就職率全国7位

教師力の指標化奏功

学生の課題が明確に

プロファイルシートを基に教員（左）から指導を受ける島根大教育学部の学生＝松江市西川津町、同大学



教員を目指す学生のために大学で身に付ける力を指標化して示す島根大教育学部のプロファイルシート

島根大教育学部（松江市西川津町）で、学内外で学んだ成果を「教師力」として指標化する独自の教育プログラム・プロファイルシートが教員就職者数の実績を上げた。2010年度卒業生の講師任用を含む教員就職率は、全国の国立系教員養成大学・学部44校中7位。地方の教員養成学部の生き残りを懸けた教育改革が実を結びつつある。（本社報道部・森山郷雄）

文部科学省によると、同学部の昨春の卒業者数は165人。昨年9月末現在の教員就職者数は111人で、データが残る過去10年で最多。教員就職率は前年より13・1ポイント上昇し、67・3％に達した。

06年度から運用を始めたプロファイルシートは、学級経営の知識や能力を表す「学校理解」、子どもの特性にあった指導を行えるかなどを問う「学習者理解」など10の評価項目で、学生自身が5段階評価。その結果を大学側が「教職教養」「専攻」「体験学修　必修」「体験学修　選択」「総合」の5分野で達成度や学年平均を指標で示し、教師になるために必要な力「教師力」のアップに向けた個別指導を教員から受ける仕組み。

ニュース追跡

島根大教育学部は、国の教育学部再編方針を背景に、04年度から鳥取大の教員養成課程が島根大に一本化されて山陰唯一の教員養成学部となった。にもかかわらず、同年度の教員就職率は33・7％と、全国48校（当時）の中で最下位と低迷。プロファイルシートを運営する教育学部FD戦略センターの肥後功一センター長は「スタートの年にショッキングな数字だった」と振り返る。

大学が目指したのは、教員になるための指導と専攻科目の研究とのバランスなど、個々の教員の裁量にゆだねられがちだった〝縦割り〟の指導体制の見直し。「授業のテスト成績とは別の評価軸を設け、学生を育てていく必要があると考えた」と加藤寿朗副学部長。「若い学生にとって『教員とは』という一見、漠然とした目標を数値を用いて可視化し、目標実現に向けた課題を具体的に探る手だてとしてプロファイルシートを導入した。

毎年秋から冬にかけ学生が行うプロファイルシートの記入では、学生が自己評価しながら、どの科目でどんな教師力が付いたかを自問自答する。川路澄人教授は「漠然と講義に参加するのではなく、授業の目的を踏まえた上で勉強する学生が増えた」とプロファイルシートの効果を強調する。

学生たちがプロファイルシートの成果が表れると指摘するのが、状況に応じた学級運営の方法などを問われる、教員採用試験の集団討論や面接の場。12年度の岡山市の小学校採用試験に合格した同学部4年の三島尚子さん(22)は「子どもたちと触れ合った体験が、教育理論に基づいて具体的な言葉で説明できるようになり、採用する側へのアピールになった」と話す。

教員採用試験は近年、一部の職種で採用枠の回復が見られるものの、少子化の中、将来も頭打ちの状態が続く。肥後センター長は「地域から必要とされる教育学部を目指し、独自の教員養成プログラムとしてさらに充実させていきたい」と話した。

山陰中央新報
(2012年1月24日付)